

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190200311		
法人名	株式会社 ケーサポート		
事業所名	グループホーム ユキササの家		
所在地	札幌市東区北16条東3丁目1番50号		
自己評価作成日	平成26年9月10日	評価結果市町村受理日	平成26年10月8日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=tue&JigyosyoCd=0190200311-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の思いや行動を大切にしています。一人ひとりのできる事・得意な事・好きな事・苦手とされる事等に応じて、個性と力を発揮できるように、入居者が主人公であることを一番に考え支援しています。その為には、意向や情報の把握に努め、実現のために創意工夫し、日頃の活動や会話に取り入れています。役割や楽しみをもって暮らして頂けるように、その方に合わせた声かけや場面づくりをし、一般的な家庭と変わらない雰囲気づくりをしています。入居者と職員はもとより、入居者さん同士の関わりも大切にしています。原因追究やタイミングを大切にしていますが、排泄に関しても、原因に沿ってタイミングを考え、トイレで排泄できるように支援しています。また、ご家族や地域の方々にも親しんで頂けるような『家』でありたいと思い、交流を大切にしています。『ユキササの家』を紹介させて頂き、認知症ケアを伝えていきたい思いで、ご見学ご相談対応や、実習生さんの受け入れを積極的に行っています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1番あおいビル7階		
訪問調査日	平成	26年	9月 26日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームでの日常の作業などは、個人の能力を考慮しながら積極的に参加してもらっています。アイランド型キッチンの採用により、多くの利用者が厨房作業に参加できる工夫、また、利用者の手作り原稿の発表会、エレクトーン演奏など個人の潜んでいる記憶や思い出を上手に引き出しながら、具現化の舞台づくりをするなど様々なアイディアが見られます。地域とは町内会事業への積極的な参加、近隣の保育園児、小学生の来訪とお絵かきやゲーム遊びなどの交流があり、また、介護職を目指す高校生の実習の場を提供するなど、事業所の力を生かした地域への貢献が行われています。利用者の心に寄り添った利用者本位の支援が開設5年を迎えるこのホームで、着実かつ果敢な取り組みとして継続されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します					
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	いつでも誰からも見えるリビングに理念を掲げ、職員が理念を理解・意識した上で、理念に基づいたケアサービスができるように努めています。理念の“居心地のいい私の時間と私の空間”を過ごして頂けるように支援しています。	「利用者一人ひとりの心に寄り添う」サービスの実践を目指す運営理念は、リビングやミーティング・ルームなどに掲示されて、職員が日々のサービスの提供を振り返る機会となり、理念の共有ならびに実践が行われています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ご近所の方との挨拶や回覧板、買い物、町内会のお祭り、区民センターでの催し、消防団の方との交流等を通して、地域で暮らしている事を実感しています。	利用者及びホームが地域の方々の深い理解のもと、地域の一員であるとの認識をし、付き合いの幅を増しています。町内会事業への参加や近隣の保育園、小学校の子供たちとの交流、また、高校の実践コースの指導も行なっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアの方が来訪された時や、ホームの避難訓練、町内会行事等、一緒に活動する時間を通して、ご理解頂けるようにしています。「認知症高齢者110番の家」に登録し、ご相談を頂くことがあります。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者さんや職員も参加しており、地域の方々と意見交換ができる大事な時間になっています。避難訓練にご参加して下さった時のご意見や感想を頂き、対応方法について話し合っています。	町内会長、地域包括支援センター職員、消防団員、利用者などのメンバーによる定期的開催の運営推進会議は、ホームの状況、現在の重点的な取り組み内容、活動内容などが詳しく報告され、メンバーの意見交換の内容も議事録に詳しく記載されています。	これまでの運営推進会議は内容的にとっても優れています。消防団員の方は利用者の家族でもあるようですが、家族の出席が少ない状況です。広く家族の意見、提案などを得るため、会議の案内及び議事録の配布による理解を求める取り組みが期待されます。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	顔が見える関係づくりを大切に、関係機関へ直接お伺いするようにしています。支援方針や最近の出来事等をお伝えさせて頂き、ホームの様子をお伝えしています。	ホームの運営について、市の窓口担当者からの指導・相談を受けながら、協力関係を築いています。今後は外部評価で得た問題及び解決についても相談しながら連携を深めることとしています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束虐待廃止委員会を設置し、何が身体拘束になるか理解し止めるケアではなく安全に動けるケアに取り組んでいます。日中は施錠せず、外出される方にただついて行くだけでなく、その方にあった支援を行いながら安全を図っています。	外部研修の出席者を中心とした報告を兼ねた内部研修を行ない、身体拘束をしないケアを学んでいます。特に利用者の行動を止めない工夫が日々検討され実践が行われています。「居心地の良い利用者個人の時間、空間を提供する」との理念はホーム全体に周知徹底されています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	課題や疑問点について話し合い、早急に解決して虐待につながらないようにしています。職員の対応や言葉について振り返り、否定や訂正をするのではなく、入居者さんの世界に合わせることを大切にしています。プライバシーについて、慣れてしまわないよう配慮しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	個人の生活状況に合わせ、必要な支援制度を受けられるように関係機関と連携を図り、不自由のない生活を送って頂けるように支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	文書と併せてご説明させて頂き、ご理解ご納得を頂いた上で、同意を頂いています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族来訪時には、こちらからの近況報告だけでなく、ご家族のご意見を伺い、支援に活かせるよう職員間で話し合っています。運営推進会議には入居者さんも参加され、地域の方へ意見を伝える機会になっています。	利用者の意見などの把握には、日々のモニタリングによる些細な事柄でもホワイトボードに記載し職員間の共有が図られ効果を挙げています。また、家族の意見等は、家族の訪問時や電話で把握していますが、運営推進会議への家族の参加が少なく、意見が十分ではありません。「意見箱」も未設置です。	ホームの運営に、より多くの家族の協力を得るため、運営推進会議への参加及び「意見箱」の設置をして、家族の運営に関するアイデアを有効活用するなどの積極的な取り組みを期待します。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段の会話やミーティングで出た意見を実現できるように、検討・計画しています。より良いサービスを提供できるよう、必要に応じて勤務体制を変え、入居者さんや職員に負担が生じないように努めています。	毎朝開催されるミーティング及び毎月1回のフロアミーティングでは、職員の活発な意見交換の場として、利用者の情報だけではなく、勤務を通しての気付きなどの提案があり、サービスの改善に役立っています。今後は1～2階合同の会議を企画して、より良い職員間のコミュニケーションの構築を図りたいと考えています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個人とフロアチームの課題を把握し、目標を決め意識して取り組めるように、朝礼で発表しています。職員に画一的サービスを求めず、自分らしく支援できる事により、各自目標をもって働くことができます。H26年9月には介護福祉士の給与を見直しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入居者さんの安心につながるように、事例に沿って、認知症ケア・医療的知識・マナーについて話し、対応力をつけられるように努めています。ホーム内の勉強会の他、外部研修へ参加した際は、持ち帰って他職員へ伝えていけるようにしています。外部研修は参加費・交通費の支給があり、参加しやすい環境にあります。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関連ホーム職員との交流や地域グループホームの催しへの参加を通じて、活動や状況を見聞きし、サービス向上につなげています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人と直接お会いさせて頂き、言葉・表情・動きからご本人のしたい事や困っている事等を受け止められるようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の意向や困っていること、介護や医療に対する意向を聴かせて頂き、ご家族が思い描かれている暮らしに近づけられるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	好まれる環境や過ごし方を聴かせて頂き、初めての環境であっても緊張をほぐせるように、ご本人やご家族が好まれる環境と交流の機会づくりをしています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の場面で、入居者さんから教えて頂いたり助けて頂く事があります。家事活動以外にも、食事やお茶の時間を一緒にゆったり過ごし、一緒に過ごす時間を大切にしてお関係を築いています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何かあった時だけでなく、来訪時やお手紙・お電話で普段の様子や健康状態をお伝えしています。ご家族から以前の様子を教えることにより、共に入居者さんを支えています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	記憶に呼びかける声かけや話題づくり、写真をみるなどして、過去とのつながりを大切にしています。ご家族ご友人の来訪や外出外泊・お手紙やお電話で今までの関係を大切にできるように支援しています。	近隣の諏訪神社で行われる9月の祭礼参加及び正月の参拝など、利用者の大きな楽しみとなっており全員が参加しています。また、思い出話(レミニシング効果)を活用して、馴染みの継続を大切に支援をしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご本人の時間や空間を守りつつ、寂しい思いをされないよう、テーブルやいすの位置を工夫しています。一人ひとりの個性や関係を把握し、必要に応じて職員は橋渡し役となり、入居者さん同士の関係を築けるようにサポートしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在の心身状態を考慮しながら、望まれる暮らしをできるように、必要に応じて情報提供やご相談させて頂いています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、言葉や表情からご本人の思いを聴いたり、ご家族の思いや意向をお伺いし、困っている事・不安な事・興味のある事などについてチームで話し合い、安心した生活を送って頂けるように努めています。	日々の暮らしをモニタリングする中で、些細な出来事や表情に気付いた場合には、ケース記録の記載だけでなく、スタッフルームのホワイトボードに記入してスピーディな伝達共有を図っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族から生活歴や馴染みのある物をお伺いしたり、これまで利用されていたサービス情報も参考にさせて頂き、支援につなげています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	会話・行動・食事水分摂取量・血圧・熱・排便状況等を記録し、普段の様子を把握し変化に気づけるように努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族の意向に沿って、介護や医療に関するご提案をさせて頂きケアプランを作成しています。ご家族のご協力を頂きながら、ケアプランに基づいた支援を行い、職員間で情報交換しながら、より良いケアにつなげています。	毎日のケース記録には、予め利用者個々のケアプランの記載があり、モニタリングがし易い方法が取り入れられ、見直しに際しても効果を挙げています。これからは毎日のバイタルなど時間繰りの記載方法の改善について検討を重ねることとしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者さんの状態・訴え・変化や、職員の気づきを個別記録に残し、申し送りやカンファレンスで話し合い、介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その日の気分や天気、全体の環境も考慮し、その時々合った支援を考え、柔軟に対応できるように努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物、散歩、お祭り、学校祭、区民センターや町内会の催しものへ出かけた時は、地域の方との会話やお支払い等、できる場面をつくり、充実した時間を過ごして頂けるように努めています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族が希望される病院をかかりつけ医とし、ご家族が受診対応される際は、情報をまとめたお手紙をお渡ししています。	利用者、家族、かかりつけ医、職員間の連携が良くとられて、適切な治療が受けられています。また、ホームの協力医療機関との連携もスムーズで家族の信頼を得ています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は日常の記録や介護職員からの報告相談を受け、状態を把握しています。必要に応じて指示を出し、見て確認し、経過をみています。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にホームとかかりつけ医から情報提供させて頂き、適切な医療とケアを受けられるようにしています。治療の方針・進行状況、回復状態を聞き、今後の方向性やリスクを確認しながら、早期退院できるように努めています。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時や‘最期のとき’について話せる時は、重度化した場合や看取りについてお伺いしています。状態の変化に応じて話し合いをし、その時の気持ちを大切に対応できるように、ホームでできる事を取り組んでいます。	重度化に際してのホームの方針は、予め家族に説明が行われています。かかりつけ医と協力医療機関による情報の共有と連携が来ています。ターミナルケアの研修によるスキルは内部伝達されており、看取りの体験も加わって対応の認識を深めています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習受講や急変時の対応を学ぶ機会をつくっています。緊急時対応マニュアルを作成し、落ち着いて対応できるようにしています。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中・夜間・地震の想定で避難訓練を行い、地域の方や消防団の方々と協力体制を築いています。訓練後には、ご指導ご意見を頂き、次の訓練に活かしています。	夜間の想定も含めた災害時の避難訓練が、消防署の協力を得て年2回実施されて利用者すべてが参加しています。また、ホーム独自の自主訓練も年2～3回行われています。災害時対応への備蓄品の準備も見られます。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの立ち場を考え、言葉づかい・態度・視線・声の大きさに気をつけ、その方に合ったコミュニケーションを取り、プライバシーに配慮しています。	利用者個々の様子を考慮して、一人ひとりの、心に寄り添った職員の言葉かけや笑顔で人格の尊重とプライバシーを損ねない対応が行われています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自由に意思表示できるように、入居者さんと関わる時間を増やし、話題づくりや自己決定の機会、表現しやすい環境づくりをしています。自己決定が難しい時は、2択にする等、聞き方の工夫をしています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースで過ごして頂けるように、どのように過ごされたいか、お伺いしたり思いを受け止めています。転倒の危険があっても止めるのではなく、ご本人の意思を尊重し、立ち上がっても安全な環境づくりをしています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	できる限り衣類を選ぶ楽しさをつくり、こちらで選ばせて頂く支援が必要な方には、同じ服が重ならないように、天気等に合わせて選ばせて頂いています。理美容は、ご家族や訪問理美容でおしゃれされています。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物や季節の食材を取り入れ、食材切り・味付け・盛り付け・配膳・下膳・後片付け・テーブル拭き等、できる方したい方ができるように支援しています。調理ができずとも、お好みを尋ね選んで頂く事により参加して頂いています。	アイランド型キッチンの採用により、利用者の多くがキッチンを囲み食事作りに参加しています。下拵え、味付け、盛り付け、下膳から食器洗いなど、利用者それぞれが参加しています。味見役も加わり職員と一緒に楽しい食事の様子を見ることが出来ます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事水分摂取量を記録し、1日の途中で(14時頃)水分摂取量を計算して水分不足にならないように留意しています。状態に応じて、形や大きさトロミの工夫をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけや促し支援を行い、ご本人の力に応じた介助をしています。ご希望に応じて歯科往診や口腔ケアを導入し、適切な口腔ケア・義歯ケアができるように支援しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間に沿って排泄内容や回数を記録に残し把握しています。汚染を減らせるようにプライバシーに配慮した促し支援をし、夜間もテープ式オムツの使用はなく、トイレで排泄されています。	職員は利用者の排泄のパターンを熟知し、それとない誘導によりトイレでの排泄を継続できるよう支援しています。失禁に際してもいち早く発見して、他人に悟られないよう処置を施すなどプライバシーに配慮した支援が行われています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や食事内容を考慮し、体操・歩行・家事活動・マッサージで排便を促しています。それでも排便がない場合は下剤を使用しますが、必要以上に服用しないようにしています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴表で入浴ペースを把握し、均等に入浴できるようにしていますが、希望のある方には入って頂けるようにしています。また、一人ひとりの入浴の仕方(習慣)を大切にしています。	入浴は利用者の状況に配慮しながら、少なくとも週2回を目途に入浴支援を行い、清潔及びストレスの解消に役立てています。時折入浴の拒否もありますが、職員を変える、時間を変えての誘導により支援が行われています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣を把握すると共に、居室以外でもゆったりくつろいで頂けるような環境づくりをしています。体調や体力に合わせ、日中に休まれる事もありますが、昼夜逆転にならないように留意しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬説明書を個人ファイルに綴じ、薬の効能・副作用を確認しています。特に処方変更時は、状態の変化への注意を徹底し、必要に応じてかかりつけ医に相談し指示を仰いでいます。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	これまでの生活歴や現在の様子から、好きな事や得意な事を把握し、楽しみや役割をもっていきいきと暮らして頂けるよう、一緒に考えながら支援し過ごしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物・回覧板・畑・ごみ出し等、日常的な外出の他、講演会や初詣等、個別や全員での外出を実行しています。「青い空だね～」など外に関心のある言葉を話された時は、戸外へ行けるように支援しています。	日常的には、買い物、ごみだし、花壇の手入れなど自発的な外出を支援しています。利用者の希望はホワイトボードに記載し、実現できるようにしています。喫茶店でのお茶会、花見、ラーメンのチラシを見てラーメン店に出かけるなど外出を楽しんでいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人やご家族の希望に応じて、お金を所持できるようにしています。ホームでお預かりしているお金を使う時は、ご本人が、受け取りや支払いをできるように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族・ご親戚・ご友人と、お電話や年賀状で楽しみをもたれています。普段は、内線電話で2階へ電話をして頂いたり、ホワイトボードに日付けや出てきた言葉・思いを書いて頂き、書く事伝える事の支援をしています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度・湿度管理や、陽の光や風が入るように調整し、安全で気持ちの良い空間づくりをしています。正月飾りやひな人形、祝日に合わせたポスターを貼るなどして、ゆったり楽しく過ごして頂ける場となっています。また、トイレや浴室の表示は、手書きで立体的にして分かりやすいように工夫しています。	広いリビングと食堂、外に通ずるベランダスペースなど全てにゆったり感に満ちています。特にリビングではソファを寄せると広いステージとなり、ボランティア、児童との交流など様々レクリエーションができます。また、利用者の要望でレイアウトを変えるなど工夫をしています。リビングにはエレクトーンを置き、利用者の演奏など楽しい雰囲気が生まれています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビを観たい方、おしゃべりをしたい方、お一人でゆっくり過ごしたい方など、それぞれのニーズに合うように、ソファやテーブルの位置を考え、必要に応じて配置換えをしています。馴染みのある場所で過ごせたり、気兼ねなく過ごして頂く為の目隠しスペースをつくり、プライベートな空間づくりをしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある家具や小物を置いたり、写真を飾るなどして、今までの暮らしを大切にできるようにしています。安全で生活しやすいように、家具の配置を考慮しています。	利用者の馴染みの家具や調度品が持ち込まれた賑やかな居室、また、割合シンプルな居室など利用者によっての差異は見られますが、いずれも安心の居場所となっています。家族との写真、習字、塗り絵などが壁を飾っています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下だけでなく居室ドア付近と押し入れ前に手すりがあり、移動や動作の可能性を引き出せる環境になっています。調理台はアイランド式になっており、向かい合わせで楽しく状況をみながら調理できるようになっています。		